

Abstract

HIV+・HIV-血友病小児におけるB型肝炎抗体価の変化

Changes in hepatitis B serologic titers in HIV+ and HIV- children with haemophilia

C. T. Kisker, E. M. Mahoney, S. Arkin, M. A. Maeder, S. M. Donfield, B. L. Evatt, et al.

この長期研究では、血友病の小児および青年におけるB型肝炎の抗体価 (immune titre) の変化が①免疫獲得法 (ワクチン接種か自然感染) に依存しているのか否か、②HIVステータスに関連しているのか、またHIV疾患の進行に影響されるのか否かを検討する。

血友病の小児・青年をHIV-群126例とHIV+群207例に分け、ベースラインでの抗体価 (HBcAb, HBsAb) とHBsAgを測定し、その後は経過観察期間の1, 2, 3年目に測定した。HIVステータスがそれぞれの値に及ぼす影響を評価するため、データ解析を行った。HIV+群については、測定値とCD4+リンパ球数、およびp24抗原ステータスとの関連を検討した。

その結果、HIV+群の小児はHIV-群の小児よりもワクチン接種で誘導された免疫を失いやすいこと

が判明した。これは同患者でのHBsAbの減少からも示唆された。CD4+リンパ球数が多く年齢が若いほど、HBsAbを失う危険性は高かった。追加免疫処置 (re-immunization) はHIV+の小児8例中7例で失敗であった。全被検者のうち2例 (1例はHIV+, 他はHIV-) は、研究開始時HBsAg-であったが、経過観察中にHBsAg+になった。また、HIV+群の7例は自然免疫を失った。これは同患者でのHBcAbの消失からも示唆された。HIV-群ではHBcAb, HBsAbの消失は全くみられないか、あっても軽微であった。

結論として、HIV+小児では免疫が失われるため、彼らに投与する凝固因子濃縮剤のウイルス安全性は慎重に評価されるべきである。HIV-小児が免疫を失うことはまれであり、HBsAbを頻繁に測定する必要はない。

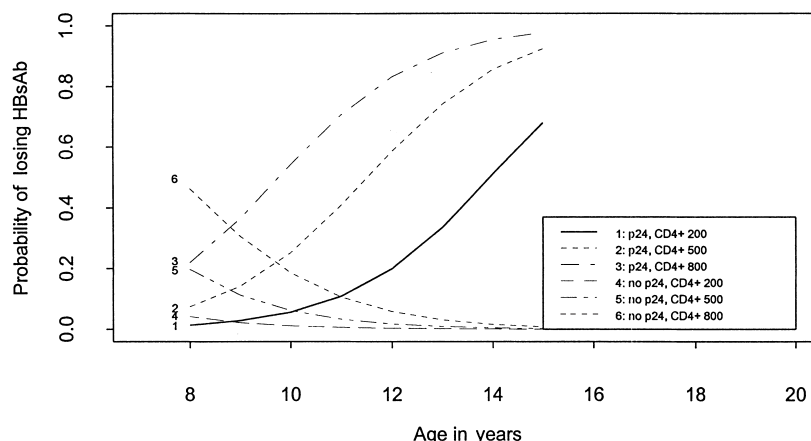


Fig. 1. Predicted probability of losing surface antibody in HIV+ children.